今月の ソリューション事例

富士通

北陸銀行の行内イントラネットシステムを刷新 クライアント仮想化で環境にやさしいシステムに

富士通は、北陸銀行（本店：富山県富山市）の電子メールや掲示板の機能の基盤となる「行内イントラネットシステム」を構築した。本システムは、従来、営業店に設置していたサーバ内のデータを、本社の事務システムセンターにおいて3台のストレージシステム「ETERNUS（エターナス）」に集約し、あわせてデスクトップ仮想化ソフトウェア「VMware View（ヴイエムウェア ビュー）」で1,500台の仮想PC環境を構築した。これにより、システム運用・保守の効率化、セキュリティの強化を図り、かつPC端末の追加などに左右されない柔軟なシステム運用が可能になった。さらに、サーバ台数が212台から54台に集約され、富士通のスーパーグリーン製品であるブレードサーバ「PRIMERGY（プライマジー）BX620」を採用するなど、CO_2排出量を従来に比べて、約4割削減することが可能となった。

北陸銀行は、ほくほくフィナンシャルグループの傘下で、北陸地区でトップの預貯金量を誇る北陸地区を代表する大手地方銀行である。同グループでは、ICT戦略を「経営の効率化」における最重要課題として位置付け、インフラ整備を積極的に進めている。このような取り組みの一環として、今回、北陸銀行では行内イントラネットを、電子メールや掲示板、通達、eラーニングなど、情報共有や業務の効率化、人材育成といった様々な用途に活用され、経営に貢献するICT基盤として刷新した。

10年前に構築した従来のイントラネットシステムでは、データをPC端末に保有せず各営業店のファイルサーバに格納するなど、先端技術を駆使した安全性の高いセキュリティ環境でシステム運用の効率化を図ってきた。今回の刷新にあたり、これらのさらなる強化と、PC端末の追加や設置場所を移動する際の設定にコストや時間がかかるなどの従来システムの課題を解決するために、北陸銀行では次のような方針を新たに策定した。

◆データは営業店側では保持せず、事務システムセンターで一括管理を行うことにより、運用効率を大幅に向上、また、データのバックアップやリストア（修復）を容易に実行できるようにする

◆PC端末の追加や移動、障害時の対応を迅速に行えるようにし、かつコストの削減を図る

◆PC端末の環境にシステム運用が左右されないように、PC端末側で使用するソフトウェアはVMware View Clientのみとする

◆各システムにおけるIDの集中管理や、操作ログ収集などによるセキュリティの強化

本システムの特長は次のとおりである。

①センター集約により効率的なシステム運用・保守が可能に：187の全営業店に設置していた212台のサーバ内のデータを3台のETERNUSに集約し、サーバリソースの有効活用と効率的なシステム運用・保守を可能に。

②仮想PC方式によるセキュリティが高く安全性を確保する柔軟なシステム：VMware Viewにより、サーバ内にPCのOSやアプリケーションなどの操作環境を集約した統合仮想デスクトップを作成し、1,500台の仮想PC環境を構築する仮想PC方式の採用により、PC端末の導入、運用、管理のコスト削減、仮想PC環境と業務システムのID管理を統合し、仮想PCの操作を管理するミドルウェアを連携させてセキュリティを強化した。

③環境経営に貢献：サーバの集約や富士通のスーパーグリーン製品であるブレードサーバ「PRIMERGY BX620」を採用し、CO_2排出量を約4割削減可能に。

富士通コンタクトライン　TEL：0120-933-200
（受付時間：9時～17時30分、土・日・祝・年末年始除く）